

やる気 応援奨学金

Report 奨学金
Vol.146



法学部独自の奨学金制度
「やる気応援奨学金」を利用した
学生の体験をご紹介します

はじめに

2020年3月、やる気応援奨学金の支援をいただき、フランスに滞在しました。今回の派遣のテーマは、語学力向上に加え、さまざまな場面でフランス社会に感じる生活の質の高さや強さを、文化へのアクセスという観点で政治学的に探ることでした。新型コロナウイルスによる外出禁止制限で、当初予定していた美術館等へのヒアリングなどを行うことができず、本派遣での主な活動は語学学校での学習とホームステイ先での経験となりました。そのなかでも、「アソシアシオン」について一定の知見を得られたのではないかと思いますので、簡単に紹介したいと思います。



地方選挙前日の近所での「ソワレ」にて

生活に浸透する「アソシアシオン」

日本でいえばNPOにあたると思われる、フランスのアソシアシオンですが、より身近な団体として機能しているようです。その理由に興味がありました。政治的な議題に関する典型的な団体以外にも、スポーツやアートなどのコミュニティとして、地域や近所内で活動する団体もアソシアシオンとされる「ソワレ」です。「3人集まればアソシアシオンとして登録可能であり、助成される制度がある」とのこと、日本と比較すると、アソシアシオンを充実さ



語学学校でアンボワーズ城を訪れた筆者

せる環境が制度的に整っていると
言えそうです。

ただ、滞在中の体験と照らし合わせながら話を聞いていくと、フランスでアソシアシオンが浸透している理由は、これから述べるように単なる制度上の違いに留まらないのではないかと感じました。

ソワレに出かけて

たくさんさんの体験のなかでも一際印象に残っているのが、ステイ先のファミリーと近所の家庭へソワレ（夜会）に出かけたことです。滞在中はちょうど地方選挙の時期で、第1回の投票の前日に、「地方選について語り合う」ために近所の人々が集まりました。そこでは、大学生や社会人を含む家族全員が在宅し、特集のテレビ番組を見ながら

社会の強さとは 何かを探る フランス・トゥール に滞在して

もちづき ゆうか
望月 柚花

法学部政治学科4年
私立桐光学園高校(神奈川県)出身

討論をしていました。日本での生活ではそのように政治が語られることになじみがなかったのですが、この光景はとても新鮮に映りました。また、この日の夜以外にも、日ごとに近所を行き来するソワレが開かれており、こんなにも気軽に距離の近い交流があることに驚きました。「生活」において、他者と関わることを厭わない土壌があるように感じ、アソシアシオンの充実に関して、市民生活における要因を見たように思いました。

2つの映画館

「どの地域にもだいたいある一般的なアソシアシオンだ」と聞いたのが、映画館です。「非営利で運営されており、そこで上映される映画には、過去の映画や自主制作の映画」があるそう



ステイ先の夫婦とのサイクリングにて

た、トゥールの街に暮らしてみても、食生活が展開している

心融かす「ひと」と生活の質

滞在中、最も心に沁みしたのは「ひと」と生活の質でした。「フランスらしい」文化の基盤があつてこそとは思いつつも、ステイ先のファミリーをはじめとする滞在中に出会つた多くの人の、違いに寛容で社交的な姿勢など、懐の深さのようなものに驚かされました。

なかで、食事の素材について語ったり、サイクリングへ出かけたりと、受け継がれる生活文化が、シンプルでありながら深く日常に組み込まれていることを知りました。ときおり、公的なルールを無視する豪快さに笑わされ、その概に元気が出ました。実際にフランスの生活を体験し、フランス語で意思疎通したいと思う相手ができただけで、語学を学ぶうえで大きなモチベーションとなる、ありがたい経験でした。

今回の滞在を通して、実際に行つて体験し、そのうえで考えることの重要性を改めて感じました。正直なところ、フランスに行く前はその政治システム、文化政策、都市政策、ファッション、哲学、アート、食など、散らばった興味でできていたイメージが、今回の経験を通して、まとめて生活との結びつきを探ることができ、当初の計画

が実行できなかったことを残念に思いつつも、満足しています。それも、たくさんの素敵な人たちと知り合い、ともに話し過ごした確かなやり取りを実感できたからだと思います。また、海外でパンデミックを経験するという思いがけない状況のなか、学べたことや得た視点が多くありました。今回の派遣を支えてくださった法学部関係者の方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

From the Faculty of Law



法学部だより



やる気応援奨学金について

法学部事務室
鈴木 まみ

このたびは、「やる気応援奨学金」についてご紹介させていただきます。やる気応援奨学金は、法学部独自の給付型奨学金です。「やる気」という名前が特徴的かと思いますが、その名の通り学生のやる気を審査し、その計画に対して奨学金を給付するものです。この奨学金は5つの部門に分かれており、学生の活動内容や目標に合わせて部門を選択することができます。特に、海外語学研修部門の英語分野では、活動前にあらかじめ計画内容を共有する場を設け、活動後にも自身の成果を発表してもらいます。個人で活動するだけでなく、学生同士の情報交換の場を設けることで、モチベーションを向上させ、ネットワークを広めることができます。

出願から活動までの大まかな流れは下記の通りになります。

- ①活動のテーマを定め、自ら情報収集を行い、計画を練る。
- ②詳細な計画書を作成し、審査書類を提出する。
- ③書類審査合格後、面接を実施。
- ④面接に合格したら、留学などの活動を行う。
- ⑤活動終了後、報告書の作成を行い、部門によっては報告会で自身の成果を発表する。

上記のように、テーマ設定から情報収集まで、自身でゼロから計画を練って選考に進むというのは容易ではありません。しかし、活動を終えた学生の報告書を見ると、「挑戦してよかった」という言葉をよく見かけます。

新型コロナウイルスの影響で、2020年度前期の募集は長期部門を除いて中止となってしまいましたが、以前のようにまた募集を再開できるよう、教職員一同、引き続きご子女の皆さんをサポートしてまいります。少しでも関心があれば、ぜひ公式Webサイト(※)をご覧ください、法学部事務室へお問い合わせいただければ幸いです。

※新型コロナウイルスの影響で、募集要項の内容に変更がある場合は、公式Webサイト(HOME>学部・大学院>学部>法学部>学費・奨学金>法学部独自の奨学金>やる気応援奨学金)でお知らせいたします。